

令和元年度 第2回下野市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年2月13日(木)午後4時00分～午後4時40分
2 場 所 下野市役所 3階 教育委員会室
3 出 席 者 下野市長 広瀬寿雄

(下野市教育委員会)

教 育 長	池 澤 勤
委 員	永 山 伸 一
委 員	三 橋 明 美
委 員	熊 田 裕 子
委 員	石 嶋 和 夫

(事務局関係)

総 務 部 長	梅 山 孝 之
総務人事課長	直 井 満
総務人事課課長補佐	平 野 享
教 育 次 長	坪 山 仁
教育総務課長	近 藤 善 昭
学校教育課長	田 澤 孝 一
学校教育課課長補佐	星 野 友 保
学校教育課主幹	森 口 哲 二
教育総務課副主幹	高 山 倫 宏

4 傍 聴 人 0名

5 議 事

- (1) 細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について
(2) その他

(高山副主幹) ただいまより、令和元年度第2回下野市総合教育会議を開会いたします。

開会にあたりまして広瀬市長よりご挨拶いただきたいと思います。

(広瀬市長) 皆様こんにちは。第2回下野市総合教育会議ということで、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日の目的は、「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について」ということで、下野市学校適正配置推進協議会を4回開催していただいたのちの結果をご報告いただいた上で、議事に入ることになると思います。皆様にご意見をいただきながら、細谷小学校のある姿というものを見出しただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

報告が入っている情報をお知らせします。令和元年住民基本台帳人口移動報告結果（総務省発表）によると、栃木県内第1位は下野市、内訳は日本人が180名の増、外国人を含むと314名の増。第2位は那須塩原市、内訳は日本人が72名の増、外国人を含むと248名の増。第3位は芳賀町、内訳は日本人が39名の増、外国人を含むと61名の増となっています。住みやすさ県内第1位、全国第44位という数字に基づいた動きが、このようなところで出てきているのではないかと思います。ここで一喜一憂することなく、どういう状況の中で増えているのか精査させていただいた上で、次に進めていきたいと考えております。

本日もよろしくお願ひします。

(高山副主幹) それでは議事に入らせていただきます。総合教育会議では広瀬市長が議長となり、議事進行を行うことになっておりますので、広瀬市長の進行でよろしくお願ひいたします。

(広瀬市長) それでは、総合教育会議の議長を務めさせていただきます。

議事(1)「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について」の説明を事務局よりお願ひします。

(近藤教育総務課長) 本日、この会議の前に行われた教育委員会におきまして、下野市学校適正配置推進協議会の小野瀬会長より「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について」の提言がありましたので、改めて審議をお願ひするものです。

本市では、平成25年11月に、下野市学校適正配置基本計画を策定し、過小規模の解消を目指す取組を行っております。平成28年度の学校適正配置推進協議会において、小規模特認校における取組について検証を行い、平成29年2月に、「細谷小学校においては、小規模特認校制度を継続しながら複式学級の解消を目指していくことが有効であり、3年後の平成31年に同様の検証を実施し、更なる方向性について検討する」との提言がありました。

今年度、細谷小学校における小規模特認校に対する検証を行って参りました。学校適正配置推進協議会では、7月22日、10月1日、11月13日、1月17日の4回会議を開催し、小規模特認校の取組に対する検証と細谷小学校の今後の方向性について協議を行い、慎重に審議を重ねるとともに、8月27日には地域説明会を実施し、地域や保護者の方々の意見を伺って参りました。地域説明会では、小規模校の良い点や、他の学校

では体験できないことができるといった意見や、学校の適正規模化をなぜ進めるのかなどの意見が出ました。また、地域説明会後に開催した学校適正配置推進協議会では、市内で1校となった小規模特認校として、細谷小学校を残すべき、地域の活性化のためにも存続すべきとの意見が大半を占めました。その後、第4回学校適正配置推進協議会において、提言の集約を行い、本日提言を行っていただいたところです。それでは、検証結果の提言についてご説明いたします。

「細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果について（提言）」に基づき、詳細な説明を行う。

(広瀬市長)

この提言につきまして、委員の皆さまからご意見がありましたらお願いします。

(石嶋委員)

発達障がいの子どもに関するテレビ番組を見ているのですが、発達障がいの子や感覚が敏感な子は、言葉や理論ではなく、感覚機能的にコミュニケーションが取れない人が多いと、それだけで緊張したり落ち着かなくなってしまうたりします。それは、本人の感覚と機能の問題なので、言葉ではどうすることもできません。そのように考えると、細谷小学校のように、小規模特認校ならではの活動を取り入れて、少しずつ人間関係を築いていくことが効果を発揮すると思います。小規模特認校ならではの特色ある教育活動によって、子どもたちの人間関係が上手くいって、保護者の方の満足度が高いという状態であれば、提言のとおりそのまま進めて、さらに改善していただいて、再度検証していただきたいと思います。ただし、児童数が少なくなりすぎて、円滑な教育活動ができなくなるという恐れもあるので、少なければいいということではないと思います。この両面から、3年後に再検証していただいて、小規模校ならではの特色ある活動に磨きをかけていただくということでもよろしいのではないかと考えます。

(広瀬市長)

他にご意見があればお願いします。

(永山委員)

非常にバランスの取れた提言であると思います。3年後に再度検証して検討するということで、大筋としてはよろしいと思います。以前テレビ番組で、広島市にできた新しい小中一貫校の特集をしていました。少人数制で、英語教育に力を入れていて、人が集まりすぎて倍率が上がってしまったそうです。学校が小さくなってしまったから小規模特認校になったというマイナスイメージがある一方で、少人数制の教育は憧れでもありません。通っているお子さんの満足度が非常に高いということなので、これから通わせようと思っている保護者の方の期待度も掴むことができれば、小規模特認校はマイナスイメージではなく、プラスイメージの武器にもなり得る学校であると思います。その時に、いわゆる普通の学校でできていることだけをやっていたのでは、小規模特認校の強みを生かせません。例えば、イラストレーターなど、普通は小学校で使い方を教えてもらえないコンピュータソフトの使い方を教え、小学生のうちにマスターすることで、将来美術の道に進む子どもにとっては武器になります。新しいところに着目して、何か子どもたちに+αのものを持たせて卒業させてあげることができる学校があってほしいと考えています。それはもしかしたら語学力がもしれませんが、コンピュータのタッチメソッドがもしれませんが、どこ

の学校でもやっていること+αのことが小規模特認校でできれば、強みになって、人が集まるようになるのではないかと思います。

(広瀬市長)

他にご意見があればお願いします。

(熊田委員)

小学校入学後につまずいてしまい、小規模特認校制度を利用して細谷小学校に転校したお子さんが、中学生になって生徒会に入って活躍されているという事例がありました。もしかしたら、小規模特認校で小学校生活を過ごされた影響があるのではないかと感じました。細谷小学校のPTAの方と情報交換をしていると、市内に小規模特認校があることで、つまずいてしまった時にも選択肢があることは非常にいいことなので、3年間様子を見るという方向で良いと思います。

(広瀬市長)

他にご意見があればお願いします。

(三橋委員)

3年後再度検証を行うことは、とても効果的であると思います。満足度が高いという意見もあるのですが、提言書の最後に「学校適正配置基本計画に則り」とあり、再編も視野に入れているということなので、3年間学校や地域の方に頑張っていたいただきたいと思いました。

(広瀬市長)

他にご意見があればお願いします。

(池澤教育長)

平成26年から小規模特認校の適正配置についての検討が始まりましたが、「3年ごとに教育委員会が検証を行うので、6年間安心して通わせることができない。だから人が集まらない。」というご意見をいただいたことがありました。昨年細谷小学校の学校祭では、児童、先生、保護者の方と一緒に、宇都宮の城山西小学校の立て直しを題材とした映画を鑑賞しました。城山西小学校は、桜をメインとして立て直しが成功したという部分で、今回の提言においてキーワードとなる「市民の義務教育機会の確保」という観点が重要であると思います。学校や地域を上げて取り組む傾向は、6年前に比べ、非常に強くなっています。細谷小学校においては、学童保育がないという意見がありましたが、地域のボランティアで行おうとする動きもあります。地域と学校が一緒になって「子どもたちのために」という共通理解をして、頑張っている学校があっても良いと思います。

一方で、子どもたちには、適正な規模の中で切磋琢磨して学び、自分で自分の夢を実現するたくましさも身に付けてほしいので、3年後の検証は妥当であると思いました。

(広瀬市長)

教育長には、現場に行っていていただいて、保護者の方や地域の方と意見を交換していただく立場として、大変ご苦勞をおかけしたと思います。

市内に小規模特認校が1校しかないからという意味付けで残すのであれば、反対したいという思いもありましたが、委員の皆様から小規模特認校という特性を活かした中で、状況を見て検討を行うというご意見をいただきました。また、地域の方が一生懸命学校を盛り立てるために、運動会や様々な授業において活発に協力してくださっていて、ありがたいという思いがあります。

小規模特認校の趣旨の下に、各地域から様々な子どもが細谷小に通学して、徐々に学校生活に慣れていくということも良いことだと思いますが、将来的に地域の方がどう考え、どう感じるのかという部分も、設置者として考えていかなければならないと思っておりました。そういった状況を踏

まえた提言であり、委員の皆様のご意見もございいますので、「学校適正配置基本計画に則って」という部分の重みをしっかり持った中で、検証・検討を続けていくことが大変重要であると思います。

城山西小学校のことについて、地域が盛り立ててくれたという意見もありますが、そこが独り歩きしてマスコミにスポットライトを当てられたときに、そこに通う子どもがどう感じるのかという不安があったという話も、城山西小学校の先生から伺っています。

そこにいる子どもが、その時の環境でごく普通に教育が受けられる、望ましい教育環境を提供していきたいと思っておりますので、よろしく願います。

今後の検証につきましては、提言に基づいた形で進めさせていただくということでよろしいでしょうか。

(全委員異議なし)

ありがとうございました。議案(1)につきましては、異議無く承認されました。

(近藤教育総務課長)

続いて、(2)「その他」に移ります。今後のスケジュールについての説明を事務局よりお願いします。

本日の提言書につきましては、2月20日より始まる議会において報告させていただきます。また、3月に地域説明会を予定しております。日程については、細谷小学校と調整中です。

(広瀬市長)

最後に、委員の皆さまから何かありましたらお願いします。(特になし)
それでは、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

(高山副主幹)

慎重審議ありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。